

高等学校家庭科 ICT機器を活用した学習展開例



岩手県立総合教育センター

はじめに

高等学校家庭科では、家庭・地域・社会の生活や生活産業の営みに必要な学習内容について、理論や考え方のみの学習にとどまらず、実験、調査、観察、見学、交流活動、就業体験、現場実習及びプロジェクト学習などの実践的・体験的な学習を中心として指導することを重視しています。学習指導要領総則では各指導場面において、ICT機器の積極的な活用が求められており、一人に1台のタブレット端末を活用させる学習展開も見られるようになってきました。高等学校家庭科においても、ICT機器の活用が実践的・体験的な学習の充実につながることを考えられます。

しかし、家庭科の授業におけるICT機器の活用は、一斉学習での「教員から生徒への実技示範や教材の提示」、協働学習での「学習成果の発表での活用」とどまりがちで、授業実践事例を示した資料も十分とはいえない状況です。

そこで、家庭科の指導においてICT機器を活用した授業を構想するための学習展開例を作成しました。本学習展開例は、平成28年6月に岩手県高等学校家庭科教員を対象に行ったアンケート調査に基づいて作成されています。これまでの授業でICT機器を「活用している学習場面」の上位三つ、一斉学習「教員による教材提示」、個別学習「調査活動」、協働学習「発表や話し合い」に対しては、授業実践を通してより効果的な指導法について効果の検証を行い、現在の活用をさらに発展させることを目指した活用方法を提案したものです。また、「今後取り組みたい学習場面」上位三つの、協働学習「協働制作」、個別学習「個に応じる学習」、「家庭学習」に対する学習展開例に、個別学習「思考を深める学習」、「表現・制作」、協働学習「協働での意見整理」、「学校の壁を越えた学習」の学習展開例を加え、今後の授業に取り入れることを目指した活用方法を提案しました。

この学習展開例が、ICT機器を活用した授業を構想するために、少しでもお役に立てれば幸いです。

平成29年3月8日

目次

一斉学習

【教員による教材提示】

家計のキャッシュレス化と多重債務

学習展開例	1
ワークシート	2

個別学習

【個に応じる学習】

子どもの発達と保育

学習展開例	4
-------	---

【調査活動】

消費者の権利と責任

学習展開例	5
ワークシート	6

【思考を深める学習】

生涯の生活設計

学習展開例	9
-------	---

【表現・制作】【家庭学習】

ライフスタイルと環境

学習展開例	10
-------	----

協働学習

【発表や話し合い】

生活における経済計画

学習展開例	11
ワークシート	12

自立した消費者を目指して

学習展開例	13
ワークシート	14

【協働での意見整理】【協働制作】

まちづくりと住まい

学習展開例	16
-------	----

【学校の壁を越えた学習】

子どもの発達と保育

学習展開例	17
-------	----

参考文献

家計のキャッシュレス化と多重債務

学習目標

適切な意思決定に基づく家計管理について考え、具体的な対応についてまとめる。

ICT活用のねらい

動画教材の活用を通して、実生活ではできない内容を理解させる。

動画の視聴に体験的な活動を組み合わせ、具体的に理解させる。

活用するICT

PC（またはDVDプレーヤー）・DVD教材（金融庁『多重債務に陥らないために』）・プロジェクター

段階	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）と アナログ（ ア ）
導入	○家計の収支について振り返る。		
展開	○現代の家計の特徴としてキャッシュレス化について学習する。	○教員からの説明を受ける。	
	○キャッシュレス化の問題の一つとして多重債務について学習する。 教員による教材の提示	○動画教材を視聴する。動画教材の内容ごとに動画を停止し①，②，③の活動に取り組む。 ①お金の余裕がないときに友人から合コンの誘い。自分が主人公ならどう行動するかを考え、ワークシートに書く。 ②ローンの利息を計算し、利息と同じ金額があったらどのように活用できるかを考え、ワークシートに書く。 ③主人公の家計状況で今後の生活を営むことができるか考え、ワークシートに書く。	デ : DVDの視聴【約15分】 ※ア : 読み物教材に置き換えることも可能
終末	○多重債務に陥らないためにどのような家計を営むべきか考える。	○自分の考えをワークシートに書く。 ○同じグループの生徒同士で意見交換を行う。	ア : 意見を述べ合う

ICT活用上の留意点

- 動画の内容ごとに活動を組み合わせて、時間を置かずに取り組ませましょう。
- 動画と組み合わせる活動には、生徒自身の生活とつなげて考えられる内容を設定しましょう。
- 動画を視聴させる際は、動画内の字や画像が見える位置に生徒を着席させましょう。座席による見え方の差を解消するためにPC、タブレットPCで視聴させる方法もあります。
- この展開例は知識の定着を図ることを目的として動画教材と活動を組み合わせています。視聴させる教材によってはこの限りではありません。

+ α

・動画教材を読み物教材に置き換える場合は、教材を教員が生徒に読み聴かせ、生徒が主人公の気持ちになって考えられるようにしましょう。

年 組 番 氏名

『家計のキャッシュレス化と多重債務』

DVD教材（金融庁『多重債務に陥らないために』）

＜主人公のプロフィール＞

- ◇25歳 独身
- ◇会社員
- ◇一人暮らし
- ◇車のローン 50万円
(月々の支払い額 1万5000円)



【主人公の家計】

給与支給額	¥250,000
税	¥20,000
社会保険	¥30,000
給与手取額	¥200,000
家賃（住居費）	¥55,000
食費（食料費）	¥45,000
光熱費（光熱水道費）	¥15,000
服飾など（被服費）	¥10,000
携帯電話（通信費）	¥10,000
遊興費（教養娯楽費）	¥20,000
自動車ローン（その他）	¥15,000
駐車場・ガソリン代（交通費）	¥15,000
支出合計	¥185,000

考えてみよう **活動①** 合コンへ行くか、行かないか あなたならどうしますか？

- ① 合コンに（行く・行かない）← どちらか一方に○をつけてください
- ② あなたが①の決断をした理由
- ③ あなたは、消費者金融から3万円借入れをして合コンに参加した主人公の行動についてどう思いますか

考えてみよう **活動②** 借入金の返済総額はいくらになるか考えてみましょう

【ローン返済シミュレーション】

30万円（元金）を金利18%で毎月1万円ずつ返済する場合（リボルビング払い）

ステップ1 年利18%から1ヶ月当たりの金利（月利）を計算する。

$$18\% \div [\quad] \text{ヶ月} = [\quad] \% \text{ (月利)}$$

$$30 \text{万円 (元金)} \times [\quad] \% = [\quad] \text{円 (利息)}$$

ステップ2 1ヶ月に支払う1万円のうち、元金返済分を求める。

$$1 \text{万円} - [\quad] \text{円} = [\quad] \text{円}$$

子どもの発達と保育

学習目標

子どもの遊びの意義を理解し、子どもの気持ちに寄り添い、絵本の読み聞かせができる。

ICT活用のねらい

生徒自身の技能を客観的に捉えさせ、自分自身で改善点を考えることができるようにする。
自分自身の改善前と改善後の変化を、視覚的に捉えることができるようにする。

活用するICT

ビデオカメラ（またはタブレットPC [録画機能]）・CDプレーヤー

段階	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）と アナログ（ ア ）
事前準備		授業までに各自で絵本を1冊準備する。 自分なりの根拠をもって絵本を選ぶ。	
導入	○絵本を選んだ理由を説明する。 ○子どもにとっての児童文化祭について学習する。	○ペアの生徒と説明し合う。 ○教員からの説明を受ける。	ア : 説明し合う
展開	○絵本の読み聞かせについて学習する。 個に応じる学習	○手本となる絵本の朗読を聞く。 ○各自でワークシートに絵本を読み聞かせるときの留意点を記入する。 ○留意点を踏まえながら、各自で絵本の読み聞かせの練習をする。	デ : CD視聴 ア : 声を出して練習
		○ペアになった生徒と相互に読み聞かせを撮影する。 ○自分の読み聞かせの改善点をワークシートに書く。 ○改善点を踏まえて各自で練習をする。	デ : ビデオカメラでの読み聞かせ撮影【約10分】 デ : ビデオカメラでの読み聞かせ再生【約10分】 ア : 声を出して練習
		○再度、ペアになった生徒と相互に読み聞かせを撮影する。 ○改善前と改善後の動画を見て比較し、どのように変わったかをワークシートに書く。	デ : ビデオカメラでの読み聞かせ撮影【約10分】 デ : ビデオカメラでの読み聞かせ再生【約10分】
		○ペアになった生徒を子どもに見立て、相互に読み聞かせを行う。	ア : 読み聞かせ
終末	○授業のまとめを記入する。	○自分自身の読み聞かせの修正への取り組みについて記入する。	

ICT活用上の留意点

- 読み聞かせの撮影には、生徒各自のスマートフォンの活用も考えられます。
- ICT機器を使い、自分自身の読み聞かせの改善前と改善後を比較し、変化を視覚で捉えさせましょう。自己を客観的に見て、修正する力を身に付けさせることによって、他の学習内容への応用も考えられます。（例 高齢者とかかわり方、制服の着方、プレゼンテーションの仕方など）

+α

・家庭学習として取り組ませることも可能です。その場合は、練習した成果を家族に見せ、感想を書いてもらうようにすると、生徒の発表の場が増えるとともに、家族の交流にもなるでしょう。

消費者の権利と責任

学習目標

消費者問題に関する課題に即した情報を調査・収集することができる。

ICT活用のねらい

インターネット上にある多くの情報の中から、実生活に活用できるような情報の調査・収集ができるようにする。

活用するICT

PC [インターネット検索機能]

段階	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）と アナログ（ ア ）
導入	○ワンクリック詐欺について学習する。	○ワンクリック詐欺に関するクイズに回答する。	
展開	○契約について学習する。	○教員からの説明を受ける。	
	○消費者問題、消費者を支える制度、消費者の権利と責任について学習する。	○教員からの説明を受ける。	
	○自立した消費者を目指して消費者問題に関する情報を調査・収集する。 調査活動	○課題文を読み、課題に即した情報の調査・収集を行う。 ①課題文の中からキーワードを抜き出し、ワークシートに書く。 ②PCで情報を調査・収集しワークシートに書く。	デ : PCでの情報の調査・収集【約20分】 ※ ア : 新聞や書籍の情報との比較
終末	○授業のまとめを記入する。	○ワークシートに調査内容を整理し、提出する。 ○調査活動に取り組んで、困ったこと、気が付いたことを記入する。	

ICT活用上の留意点

- 1単位時間内で調査活動を行う場合は、検索キーワードを記述させてから調査に取り組みせる等、課題に即した調査が行われるような配慮が必要です。
- この学習展開例は1単位時間内での調査活動を想定しています。1単位時間以上、または自由な発想に基づく調査活動を行わせたい場合はこの限りではありません。
- 調査活動に取り組みせる前に検索キーワードや信憑性を意識させるような指導を行いましょう。
- 生徒の調査技術を見極め、高等学校段階で身に付けさせたい情報活用能力の育成を意識した調査活動に取り組みせましょう。
- 情報活用能力とは、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」の三つです。【参考】『教育の情報化に関する手引』（2010、文部科学省）

+ α

・ウェブサイトの閲覧履歴を確認することにより、生徒の調査活動の詳細を把握することができます。生徒がどこでつまづいているのかを確認し、指導に生かしましょう。

年 組 番 氏名

『 消費者の権利と責任 』

1. 契約について

- ① ものをかうということはすべて（ ）にもとづいて行われます。
- ② 契約とは法律上の（ ）と（ ）が生じる約束事。
- ③ 契約はお互いの（ ）で成立する。
- ④ 契約は（ ）でも成立する

2. 消費者問題について

- ① 消費者問題とは（ ）と（ ）の間で取引が（ ）であるために、消費者が不利益をこうむる問題のこと。
- ② 消費者問題のなかでも特に問題なものを（ ）商法 [（ ）商法] という。

3. 消費者を支えるしくみについて

① 消費者を支える制度

- 1968年 [] 法
- 1970年 国民生活センター・消費生活センター
- 1995年 製造物責任法【PL法】
- 2001年 消費者契約法
- 2004年 [] 法

（ ）される消費者から、（ ）した消費者へ

2009年 消費者庁

② 消費者の権利と責任

【消費者の「8つの権利」】

- ① 安全を求める権利
- ② 知らされる権利
- ③ 選ぶ権利
- ④ 意見を反映してもらう権利
- ⑤ 消費者教育を受ける権利
- ⑥ 被害を受けた際に補償を受ける権利
- ⑦ 健全な環境のなかで働き、生活する権利
- ⑧ 生活の基本的ニーズが保障される権利

【消費者の「5つの責任」】

- ① 批判的意識を持つ責任
- ② みずから主張し（ ）する責任
- ③ 社会的弱者を配慮する責任
- ④ 環境に配慮する責任
- ⑤ 連帯する責任

私たち消費者には、権利とともに（ ）がある

③ 行動することで社会が変わる

現在起こっている消費者問題について知ることから始めましょう！

年 組 番 氏名

インターネットを使った調査活動

岩手県における消費者問題の現状

【高度通信社会に伴う消費者トラブルが増加】

パソコン、携帯電話等の情報通信機器に加え、スマートフォンの普及が急速に進んでいるほか、情報通信技術の発達により、インターネットでは様々な商品・サービスの購入・取引、金融取引等が可能となり、実際に多くの消費者がこうした利便性の高いインターネット経由の取引を行うようになってきました。

また、決済手段においても電子化・多様化が進み、クレジットカードやコンビニエンスストアでの支払いなど、様々な手段が用いられています。

このように情報通信ツールが私たちの暮らしと切り離せないものとなる中で、電気通信サービス契約、インターネット通販での商品・サービスの購入、インターネットサイトを利用したアダルトサイト情報サイト・出会い系サイト・オンラインゲーム等のコンテンツに関するもの、覚えのない連絡先からの「連絡を下さい」とのメールや、一方的に送り付けられる「迷惑メール」、フィッシング等による個人情報の不正入手など、新しい消費者トラブルが発生しているほか、海外事業者との国境を超えた取引に伴うトラブルも増えています。

出典：『岩手県消費者施策推進計画（平成26年度改訂版）』岩手県

課題：高度通信社会が進むことに伴って増加している消費者問題について、具体的な事例と被害への対策を調べる。なお、調べた内容は本校生徒に紹介し、注意喚起するために使用します。

注意事項：調査した内容を「調査内容記入用紙」に記入する際は、情報をどこから引用したかを、必ず出典の欄に記入してください。

例) 岩手県公式ホームページ>暮らし環境>消費生活



年 組 番 氏名

インターネットを使った調べ学習【事例収集用紙】

事例	
概要	対策
出典	
事例	
概要	対策
出典	

生涯の生活設計

学習目標

自分が目指すライフスタイルを実現するための生活設計について考えることができる。

ICT活用のねらい

デジタル教材を用いることにより、通常では難しい試行を容易に行うことができるようにする。
学習課題について思考し、繰り返しシミュレーションできるようにする。

活用するICT

PC（またはタブレットPC）・動画教材・動画再生用機器

段階	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）と アナログ（ ア ）
導入	○50年後の生活を想像する。	○高齢期の生活に関する動画を見る。 ○ペアになって意見を交換する。	デ : 動画視聴 ア : 意見を述べ合う 【約5分】
展開	○生涯を見通した生活設計について学習する。 思考を深める学習	○高校生である今からどのようなライフスタイルを作っていくか考えるために生活面、健康面、金銭面の三つの視点を持つ。 ○ライフプランシミュレーションに取り組む。 ○シミュレーション結果を参考にしながら、自分自身の生活面、健康面、金銭面の視点で、どのような生活を送れば高齢期まで自分らしい生活が送れるかを考える。 ○ライフプランを見直し、再度シミュレーションに取り組む。 ○ライフプランシミュレーションに取り組んだ感想をペアになって述べ合う。	デ : PCでのシミュレーション【約20分】 ア : 感想を述べ合う【約5分】
終末	○授業のまとめを記入する。	○生活面、健康面、金銭面で今からできることは何かをワークシートに記入する。	

ICT活用上の留意点

- 授業導入部で使用する動画は、三世代世帯の減少により生徒が高齢期の生活をイメージできなくなっていることを考慮しています。高齢期の生活の楽しい面、困難な面、どちらも理解できるような内容にするとよいでしょう。
- ライフプランシミュレーションは、インターネット上に無料で活用できる教材があります。
- 生徒に複数回シミュレーションを重ねさせながら、現在の生活を変えることにより将来の生活が変化することを捉えさせましょう。
- ライフプランの見直しに取り組ませる際は、極端な節約等、実現が困難な見直しをするのではなく、現実的に取り組めるような見直しができるように説明しましょう。

+α

・金銭面についての内容を扱う際に年金制度についての学習内容を取り入れるなどして、分野を横断した授業展開も考えられます。

ライフスタイルと環境

学習目標

環境負荷の少ない生活について考えることができる。

ICT活用のねらい

家庭学習：個々の生活の中にある「持続可能な社会」につながるものを意識させる。

表現・制作：写真を用いて作品を制作させることで、表現力を高める。

活用するICT

家庭学習：デジタルカメラ（またはスマートフォン・携帯電話）

表現・制作：PC・プレゼンテーションソフト

授業展開	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）とアナログ（ ア ）
1 時間目	○「持続可能な社会」について学習する。	○「持続可能な社会」の視点、必要性について学習する。	
家庭学習	○生活の中にある「持続可能な社会」につながるものへの視点をもつ。 家庭学習	○生活の中にある「持続可能な社会」につながるものを撮影する。次の授業の前日までに画像データを教科担任へ提出する。 ○撮影したものがどのように「持続可能な社会」につながるのかをワークシートにまとめる。	デ ：デジタルカメラ（またはスマートフォン・携帯電話）での撮影
2 時間目	○「持続可能な社会」についてのプレゼンテーション用スライドを制作する。 表現・制作	○プレゼンテーションソフトを使用して画像データ、文字等を使って1枚のスライドを制作する。生徒個々に①何の画像か、②どのように「持続可能な社会」につながるのか、③氏名を工夫してレイアウトする。 ○次時の発表に備えて練習をする。	デ ：PCでのプレゼンテーション用スライドの制作【約45分】
3 時間目	○生活の中にある「持続可能な社会」についてプレゼンテーションする。	○前時に制作した全員のスライドを資料として配布する。 ○スクリーンにスライドを映し出し、①何の画像か、②どのように「持続可能な社会」につながるのかをプレゼンテーションする。 ○「持続可能な社会」を実現するために自分が今日からできることは何かをワークシートに記入する。	デ ：PC、プロジェクターでの投影【約45分】

ICT活用上の留意点

- 家庭学習としての撮影に取り組みせる前に、「撮影のマナー」についての事前指導を行いましょう。
- スライドの制作への取り組みせ方は、自由な発想で取り組みせる方法、教員が形式を指定する方法、生徒の状況に合わせて選択しましょう。
- スマートフォン、携帯電話等を授業で活用する際は、管理職への相談と生徒への使用ルールの指導を行いましょう。
- スマートフォン、携帯電話で画像データを送信すると、通信料が発生しますのでご注意ください。

+α

・課題に取り組みせることを想定し、日頃から生活に目を向ける視点を生徒に持たせておくといでしょう。

生活における経済計画

学習目標

長期的な視点に立って家計管理について考えることができる。

ICT活用のねらい

書き込み機能を活用することで、教員が生徒の生活の現状を捉えて授業を展開する。

書き込みを通して多くの考えに触れさせ、生徒自身の考えを深めさせる。

活用するICT

タブレットPC（またはPC）・スタモバA3 [掲示板機能]

段階	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）とアナログ（ ア ）
導入	○消費について考える。 発表や話し合い	○教員の問いに対する各自の考えをタブレットPCで掲示板に書き込む。 【発問例】「今日、あなたは今までに何を消費しましたか」 ○他の生徒の書き込みを読み、参考になる意見をワークシートに書く。	デ : タブレットPCでの書き込み【約5分】
展開	○消費者と生産者、家計と国民経済とのかかわりについて学習する。	○教員からの説明を受ける。	
	○家計のしくみについて学習する。 発表や話し合い	○太郎さん（25歳・独身）の給与明細票と家計簿を使い、可処分所得の計算、家計の赤字・黒字の判断をする。 ○資料を参考にしながら、長期的な視点に立って太郎さんの家計の問題点を考え、各自がタブレットPCで掲示板に書き込む。 ○他の生徒の書き込みを読み、グループ内で意見を交換する。	デ : タブレットPCでの書き込み【約7分】 ア : グループ内での意見交換【約5分】
終末	○望ましい家計の在り方について考える。	○自分の考えをワークシートに記入する。	

ICT活用上の留意点

- 授業で掲示板機能を初めて使わせる場合は、日常的に生徒が使用しているSNSの書き込みとの違いを説明し、書き込みのマナーやタブレットPC使用上のルールを指導する必要があります。
- 生徒の状況を見て書き込み時間を調整することもできますが、1単位時間内で書き込みを使用する場合は、制限時間を設けて書き込みをさせるとよいでしょう。
- 生徒の書き込みの中からその場でいくつかの書き込みを取り上げて良い点をほめることで、生徒の意欲を高めることができます。

+α

・書き込みを活用することにより、挙手制では発言できない（しない）生徒の表現を引き出す可能性があります。

年 組 番 氏名

『生活における経済計画』

【タブレットへ書き込みましょう】あなたは朝起きてから今まで、何を消費しましたか？

- 他の人の意見を読み、「参考になる（参考にしたい）」と思う意見を書きましょう



1. 国民経済のしくみ

- ① 国民経済の主体は（ ）,（ ）,（ ）である。
 ② 家計消費はGDPの約（ ）割を占める。

2. 家計のしくみ

- ① 家計は（ ）と（ ）のバランスが重要である。
 ② 実収入の経常収入とは（ ）を中心とした定期的に計上される収入のことである。
 ③ 消費支出とは主に10費目からなる（ ）のことである。
 ④ 非消費支出とは（ ）や（ ）のことである。
 ⑤ 可処分所得を式に表すと「（ ）－（ ）」である。
 ⑥ 可処分所得とは（ ）である。
 ⑦ 第一太郎さんの家計

$$\begin{array}{ccccc} \text{実収入} & & \text{非消費支出} & & \text{可処分所得} \\ \boxed{} & - & \boxed{} & = & \boxed{} \end{array}$$

$$\begin{array}{ccccc} \text{可処分所得} & & \text{消費支出} & & \\ \boxed{} & - & \boxed{} & = & \boxed{} \quad (\text{黒字} \cdot \text{赤字}) \end{array}$$

【タブレットへ書き込みましょう】第一太郎さんの家計について気になるところはどこですか？

- 他の人の意見を読み、「参考になる（参考にしたい）」と思う意見を書きましょう



- ⑧ 家計に影響を及ぼすものは（ ）,（ ）,（ ）,（ ）など。
 ⑨ 物価とは（ ）や（ ）の価格のことである。
 ⑩ 消費者物価指数とは（ ）のために購入する商品の（ ）のことである。

自立した消費者を目指して

学習目標

生活の質を向上させるために、どのような消費生活を築けばよいか考えることができる。

ICT活用のねらい

書き込み機能を活用することで、教員が生徒の生活の現状を捉えて授業を展開する。

書き込みを通して多くの考えに触れさせ、考えを深めさせる。

授業の導入部と終末部の変化を書き込みによって可視化し、生徒自身に捉えさせる。

活用するICT

タブレットPC（またはPC）・スタモバA3（掲示板機能）

段階	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）とアナログ（ ア ）
導入	○ 日常の買い物の基準を考える。 発表や話し合い	○ 教員の問いに対する各自の考えをタブレットPCで掲示板に書き込む。 【発問例】「日常生活の買い物をするとき、どのような基準で商品を選びますか」 ○ 他の生徒の書き込みを読み、参考になる意見をワークシートに書く。	デ : タブレットPCでの書き込み【約5分】
展開	○ 社会への影響を考えた消費について学習する。	○ 教員からの説明を受ける。	
	○ 自立した消費者として、どのような消費生活を築けばよいかについて考えを深める。	○ 消費者として大切にしたいキーワードを選択肢から三つ選び、そのキーワードを選んだ理由をワークシートに記入する。 ○ 同じグループの生徒同士で発表し、それをもとに自立した消費者としてどのような消費生活を築けばよいかを話し合う。	ア : グループでの話し合い【約10分】
終末	○ 生活の質を向上させる消費生活について考える。 発表や話し合い	○ 教員の問いに対する各自の考えをタブレットPCで掲示板に書き込む。 【発問例】「自立した消費者になるために、あなたが今日からできることは何か」 ○ 他の生徒の書き込みを読み、参考になる意見をワークシートに記入する。	デ : タブレットPCでの書き込み【約10分】

ICT活用上の留意点

- 書き込みの内容はログとして残ります。評価で使用する際は前もってそのことを生徒に伝え、時間になったら途中の状態でも書き込みをするように指示をするとよいです。
- 参考になった書き込みをワークシートに記入させると、「関心・意欲・態度」の評価に活用することができます。
- 書き込みを活用して授業のまとめを全員で共有して終わるためには、授業の終末部にゆとりをもった授業構成にしましょう。
- 生徒にまとめの書き込みをさせる際は、適当な文字数を検討することが大切です。

+α

- ・ 書き込みと話し合いを併用して様々な表現に取り組みませ、生徒の得意な面を引き出しましょう。
- ・ 他の生徒の書き込みを通して、自分になかった「語彙」や「表現」に触れる場にもなります。

『 自立した消費者を目指して 』

○ 他の人の書き込みを読み、「参考になる（参考にしたい）」と思う意見を書きましょう

1. 社会への影響を変えた消費

① TABLE FOR TWO【テーブル フォー トゥー】:

先進国の肥満と開発途上国の飢餓を減らす取り組み。対象となる定食や食品を購入すると1食につき（ ）円の寄付金が開発途上国の子どもたちに寄付される。（ ）円は開発途上国の子どもの1食分の（ ）の金額。

② FAIR TRADE【フェアトレード】:

開発途上国の労働者が労働にみあった（ ）が得られるように、商品を適正な価格で取引する（ ）のこと。開発途上国の（ ）が守られる生産活動が行われるように配慮されている。

③ 「買う」ということは「その生産システムに（ ）を投じる」ということ。

「買う」ことをとおして、生産者に自分の意思を伝えることにもなる。

④ 商品の環境ラベルやマークを見て購入するものを選ぶ。

⑤ いろいろな消費に対する考え方

文化を守る・自立を支援する・国内の生産者を応援する・昔ながらの接客を支持する

2. あなたが消費者として大切にしたいキーワードを3つ選び、○をつけてください。

該当するキーワードがない場合は、空欄に各自で書き込んでください。

健康への影響	環境への影響	社会への影響	未来への影響	責任
価格	量	品質	原材料	産地
イメージ	ブランド	好み	流行	生産者
心の豊かさ	公正	自分らしさ	文化伝統	批判的意識
主張	行動			

このキーワードを選んだ理由を記入してください。

参考になった意見を記入してください。

まちづくりと住まい

学習目標

地域のよさを生かしながら、安全で環境に配慮した住生活について考えることができる。

ICT活用のねらい

協働制作：プレゼンテーションのための表現技法を話し合いながら、よりよい作品を作る。

協働での意見整理：互いの意見を視覚的に共有することにより、議論を深める。

活用するICT

協働制作：タブレットPC（またはPC）・プレゼンテーションソフト

協働での意見整理：タブレットPC（またはPC）・プレゼンテーションソフト・プロジェクター・実物投影機

段階	学習内容	学習活動	デジタル（ デ ）と アナログ（ ア ）
導入	○学校がある地域について考える。	○隣の生徒と、地域のよい点について話合う。	
展開	○地域について調査し、プレゼンテーション用スライドを作成する。 協働制作	○グループ（4人）ごとに話し合い、地域のよさが伝わる事柄を4つ考える（観光・産業・特産品・高齢者支援・子育て支援・歴史・人物など）。一つの事柄について一人が担当して、PCでその内容を調査し、一人1枚ずつプレゼンテーション用スライドを作成する。4枚のスライドを1つのプレゼンテーションとして合わせる。	デ : PCでの調査・スライド作成【約40分】
	○地域を襲う災害などの危機について学習する。	○「災害をもたらす自然現象」について、教員から説明を受ける。	
	○地域のよさを生かしながら、安全で環境に配慮したまちづくりについて考える。 協働での意見整理	○通常時の暮らしのこと、災害がきたときのこと、二つの視点を持ちながら、グループでプレゼンテーションスライドを見ながら優先順位を話し合い、その優先順位を考慮してワークシートにまちづくりをする。	デ : PCでの意見整理 ア : ワークシートでのまちづくり【約10分】 ※学習教材『防災まちづくり・くにづくり』（内閣官房国土強靱化推進室）
	○全体で発表する。	○地域のよさについてプレゼンテーションソフトを使って説明し、それを踏まえた上で、災害に備えてどのような視点でのまちづくりを考えたか、ワークシートを実物投影機で映して説明する。	デ : PC・実物投影機・プロジェクターでのプレゼンテーション【約35分】
終末	○授業のまとめを記入する。	○まちづくりについての自分の考えをワークシートに記入する。	

ICT活用上の留意点

- よりよいプレゼンテーションができるよう同じグループの他の生徒の進捗状況を確認しながら、協力してスライド作成を行うように指示しましょう。

+α

・まちのよさを考える学習内容と、災害に備えるためのまちづくりの学習内容を分けて授業を構成することもできます。

子どもの発達と保育

学習目標

子どもの発達の特長や保育に関する知識を持ち、知識をもとに人とかかわることができる。

ICT活用のねらい

メールを活用して、中学生との異年齢交流、遠隔交流を行う。

メールを活用することにより、中学生と高校生がお互いの都合の良い時間で作業ができる。

活用するICT

PC [電子メール・インターネット検索機能・ワープロ機能]

段階	内容	デジタル (デ) と アナログ (ア)
ステップ1	○保育体験学習前の中学生から、心配なことや質問をメールで送信してもらう。	デ : PC [電子メール]
ステップ2	○教員が中学生と高校生をペアリングする。	
ステップ3 授業	○高校生がペアになった中学生のメールへの回答を電子データとしてまとめる。教科書・書籍類、インターネットなどを活用して調べ、中学生の質問に対しての十分な回答になるようにする。 ○中学生への回答を教員へ一旦提出する。	ア : 教科書・書籍類での調査 デ : PCでのインターネット検索 PCでの中学生への回答文書作成
ステップ4	○高校生から中学生へ回答のメールを送信する。	デ : PC [電子メール]

※ステップ3を授業時間内に行うことを想定しています。

※ステップ4の前に、教員が中学生への回答内容の確認を行ってください。

ICT活用上の留意点

- 中学校、高校の担当教諭がメールの管理を行う必要があります。
- 生徒個々にメールを送信できない場合は、担当教諭が受信、送信を代行します。
- 中学生の質問への回答をまとめるためにPCのインターネット検索を使う場合、収集する情報の信憑性を意識させましょう。
- 中学生と高校生がメールでのやりとりをする回数は、1回でも、複数回でも効果があります。
- メールでの遠隔交流だけでなく、文化祭へ招待する等の対面交流の場を設け、交流を深める活動へつなげることもできます。

+α

・中学生、高校生の青年期における異年齢（ナナメの関係）の交流は、相互によい影響があると言われています。

- ・高校生から中学生への回答は、「アドバイスをする」ような書き方を意識させるとよいでしょう。
- ・保育分野での交流だけでなく、専門高校で学ぶ生徒の知識を生かすことができる他分野での交流も考えられます。

参考文献

- 文部科学省（2009），『高等学校学習指導要領』，東山書房
- 文部科学省（2010），『高等学校学習指導要領解説家庭編』，開隆堂出版
- 岡田加奈子 竹鼻ゆかり（2011），『教師のためのケースメソッド教育』，少年写真新聞社
- 香川芳子ほか（2012），『高等学校 家庭基礎 とともに生きる・未来をつくる』，第一学習社
- 国立教育政策研究所（2012），『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』（高等学校
共通教科「家庭」）
- 坂村健ほか（2012），『高等学校 社会と情報』，数研出版
- 大黒弓枝（2001），『乳幼児理解を目的とした中学・高校生の交流学习が生徒相互の学びに及ぼす効果』，
兵庫教育大学大学院
- 千葉県高等学校教育研究会家庭部会家庭科教育推進委員会（2013），『あんころ～家庭科の授業案がこ
ろころ出てくる本～』，教育図書株式会社

【参考Webページ】

- 岩手県（2015），『岩手県消費者施策推進計画』
- <http://www.pref.iwate.jp/shouhiseikatsu/jouhou/33449/033499.html>（平成28年12月12日閲覧）
- 消費者庁
- <http://www.caa.go.jp/index.html>（平成28年12月12日閲覧）
- 文部科学省
- <http://www.mext.go.jp/>
- 文部科学省（2010），『教育の情報化に関する手引き』（平成28年12月12日閲覧）
- 文部科学省（2010），『教育の情報化推進施策等について』（平成28年12月12日閲覧）
- 文部科学省（2011），『言語活動の充実に関する指導事例集』（平成28年12月12日閲覧）
- 文部科学省（2011），『教育の情報化ビジョン』（平成28年12月12日閲覧）
- 文部科学省（2014），『学びのイノベーション事業実証研究報告書』（平成28年12月12日閲覧）
- 文部科学省（2015），『情報活用能力育成のために』（平成28年12月12日閲覧）

高等学校家庭科
ICT機器を活用した学習展開例

平成 29 年 3 月発行

著 者 岩手県立総合教育センター
平成 28 年度長期研修生 水上 弓枝
発行者 岩手県立総合教育センター
岩手県花巻市北湯口第 2 地割 82 番 1
〒025-0395 電話（代表）0191-27-2711